第十二講　敬語

★敬語の種類＝尊敬語・謙譲語・丁寧語

★本動詞と補助動詞

○**補助動詞**の型

①　＋V

（例）書き**奉る**

※形容詞・形容動詞＋VのVは、「あり」の意味の動詞の場合

※用言＋助動詞＋Vもある。

（例）書かせ**給ふ**

②　＋　＋V

（例）書きて**侍り**

③　＋（　）＋

「　」の意味の動詞
おはす
おはします
侍り
候ふ

（例）女房に（て）**候ふ**

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

★それぞれの種類の補助動詞と訳

○

語＝

給ふ（　　　）
おはす
おはします

（訳）「〜　　　」・「　　〜　　　」

○

語＝

奉る
申す
聞こゆ
参らす
給ふ（　　　）

（訳）「（お）〜（し）　　　」・「　　〜　　　」

○

語＝

侍り
候ふ

（訳）「〜　　　」・「〜　　　」・「〜　　　」

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

★補助動詞　二つの「給ふ」

「　　」語＝四段	は	ひ	ふ	ふ	へ	へ
「　　」語＝下二段	へ	へ	（ふ）	ふる	ふれ	（へよ）

※終止形と命令形の用例はほとんど見られない。

○「給へ」の場合→「　　」（＝活用形）確認。

（例）思ひ給へず

○「**謙譲**語の給ふ」の特徴

①「　　」・「　　」で使用。

②「　　」・「　　」・「　　」・「　　」にしか付かない。

③主語は「　　」。

④訳は「～　　」・（「～　　」）

⑤敬意の方向＝**聞き手**に対する敬意

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問一　「心地し①はべるに、…」「〜いかに見②たてまつり③たまはん」の傍線部①〜③の敬語の種類を、それぞれ後の中から選べ。

a　尊敬語　　b　謙譲語　　c　丁寧語

①＝　　②＝　　③＝

問二　次の傍線部①〜④の「たまへ」のうち、敬語の種類の異なるものが一つだけある。その番号を答えなさい。

「〜なほたち返り紅葉もいかにと思ひ①たまへてなむ。旅寝もしつべき木のもとにこそ」とて、見出だし②たまへり。〈中略〉「さま変り③たまへらんさまを、いささか見せよ」と、少将の尼にのたまふ。「それをだに、契りしるしにせよ」と責め④たまへば、…

問三　「まかり出でて見給へむと思ひ給へしに、年はまかり老いにたり、…」の傍線部の現代語訳として最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

1　（陽成院が）御覧になると思いましたが
2　（陽成院が）御覧になるはずがないと思いましたので
3　拝見しようと思いましたが
4　見るのを諦めようと思ったのですが
5　孫が姿を現すのを期待していたのですが

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

★本動詞

○覚えておくべき**尊敬語**　　※**太字**の敬語動詞は**最高敬語**

敬語動詞	訳	通常語
あそばす	なさる	す
います	いらっしゃる	あり・居り・行く・来
いまそがり		
おはす		
おはします		
ます		
まします		
仰す	おっしゃる	言ふ
のたまふ		
のたまはす		
思す	お思いになる	思ふ
思ほす		
思しめす		
大殿ごもる	おやすみになる	寝
聞こす	お聞きになる	聞く
聞こしめす		

敬語動詞	訳	通常語
御覧ず	ご覧になる	見る
給ふ	お与えになる	与ふ
たぶ		
たまはす		
しろしめす	お治めになる	治む
	知っていらっしゃる	知る
召す（※食(を)す）	御覧になる	見る
	※お治めになる	治む
	お呼びになる	呼ぶ
	※召しあがる	食ふ・飲む
	※お召しになる	着る
	お乗りになる	乗る
参る 奉る	お召しになる	着る
	召しあがる	食ふ・飲む
	お乗りになる	乗る

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

○覚えておくべき**謙譲語**

敬語動詞	訳	通常語
承る	うかがう	聞く
聞こゆ	申し上げる	言ふ
聞こえさす	申し上げる	言ふ
申す	申し上げる	言ふ
奏す	＊**天皇**に申し上げる	言ふ
啓す	**中宮・東宮**に申し上げる	言ふ
奉る	差し上げる	与ふ
参る	差し上げる	与ふ
参らす	差し上げる	与ふ
賜る(たまはる)	いただく	受く
参る	参上する	行く・来
まうづ	参上する	行く・来
まかる	退出する	行く・来
まかづ	退出する	行く・来

敬語動詞	訳	通常語
つかまつる	お仕えする	仕ふ
つかうまつる	お仕えする	仕ふ
侍り	お仕えする	仕ふ
候ふ	お仕えする	仕ふ

＊上皇（譲位した天皇の称）や法皇（出家した上皇）に申し上げる際にも使用する

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

○覚えておくべき**丁寧語**

敬語動詞	訳	通常語
侍り	ありますꞏおります	ありꞏ居り
候ふ		

問四　「あな苦しと思して、…」の傍線部のよみがなを記せ。

問五　「心もとながり聞こえさせ給へれど、…」「いまはと思しなしたる御心…」の傍線部ア、イの敬語の種類をそれぞれ答えよ。

ア＝

イ＝

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問六　「不覚におほとのごもりぬ。」の現代語訳として最もふさわしいものを、次のア〜オの中から一つ選べ。

ア　不意にお隠れになった
イ　正体なくお眠りになった
ウ　なかなか寝つけなかった
エ　気づかずにお帰りになった
オ　突然意識をお失いになった

問七　「天道もこれをぞ恵み給ふらん」の傍線部の文法的説明として、最も適当なものを次のア〜オの中から一つ選べ。

ア　名詞＋尊敬の四段活用動詞の連体形＋完了の助動詞の未然形＋推量の助動詞の連体形
イ　名詞＋謙譲の下二段活用動詞の終止形＋現在推量の助動詞の終止形
ウ　マ行四段活用動詞の連用形＋尊敬の補助動詞の終止形＋完了の助動詞の未然形＋推量の助動詞の終止形
エ　マ行四段活用動詞の連用形＋尊敬の補助動詞の終止形＋現在推量の助動詞の連体形
オ　マ行四段活用動詞の連用形＋謙譲の補助動詞の終止形＋完了の助動詞の未然形＋推量の助動詞の連体形

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問八　次の波線部a〜cの説明として最も適当なものを、後の1〜4の中から選べ。（同じ記号を二度以上用いてもよい。）

「父の年八十に罷（ほか）り余りたるは。『いたう腹を立て、逃げむを追ひ候はむ程、倒れもこそ仕れ』と思ひ給へて、打たれ臥して候ひつるなり」と答へつれば、…。

1　将達を敬う尊敬表現　　2　将達を敬う謙譲表現
3　将達を敬う丁寧表現　　4　公助を敬う尊敬表現

a＝　　b＝　　c＝

問九　次の傍線部（ア）・（イ）の説明として最も適当なものを、後の1〜5の中からそれぞれ一つ選べ。

「いとありがたく侍り（ア）けれ。」
「よき歌つかうまつれ（イ）」とおほせらるる

1　尊敬の本動詞　　2　謙譲の本動詞　　3　丁寧の補助動詞
4　丁寧の本動詞　　5　謙譲の補助動詞

（ア）＝　　（イ）＝

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

★２種類ある敬語本動詞

○覚えておくべき**尊敬語**

敬語動詞	訳	通常語
参る・奉る	お召しになる	着る
	召しあがる	食ふ・飲む
	お乗りになる	乗る

○覚えておくべき**謙譲語**

敬語動詞	訳	通常語
奉る・（参る）	差し上げる（参上する）	与ふ（行く・来）
侍り・候ふ	お仕えする	仕ふ

○覚えておくべき**丁寧語**

敬語動詞	訳	通常語
侍り・候ふ	あります・おります	あり・居り

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

●本動詞の「奉る」と「参る」→「　　」か「　　」。

「　」 ─┬─「　」お召しになる
　　　　├─「　」召しあがる
　　　　└─「　」お乗りになる

「　」＝「　　」「　（「参る」のみ）」

〈例題一〉 次の傍線部を現代語訳せよ。

① 簾すこしあげて、花<u>奉る</u>めり。

② 右大弁の子のやうに思はせて率て<u>奉る</u>。

③ ほかにて酒など<u>参り</u>、酔ひて…。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

●本動詞の「侍り」と「候ふ」→「　　」か「　　」。

「　」＝あります・おります

「　」＝「　　」

※ 貴人に／貴人がいる場所に ＋ 侍り／候ふ ＝「　　」の本動詞

問十　次の傍線部「侍りて」の意味として最適なものを、後のア〜オから選べ。

「悦[*1]は、近衛殿[*2](このゑどの)（応山公）に侍りて、筆法を学び奉りけり。」

＊1　悦＝本阿弥光悦。安土桃山時代から江戸時代初期の書家・工芸家。

＊2　近衛殿＝江戸時代初期の公家・近衛信尋(のぶひろ)。後陽成天皇の皇子で、近衛家を継ぎ関白となる。優れた書を残す。

ア　取り入って　　イ　警護を任されて　　ウ　気に入られて

エ　お仕えして　　オ　期待されて

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

★敬意の方向

●「誰から」→敬語の「　　　　」確認。

○地の文＝「　　　　」から。

○会話文＝「　　　　」から。

●「誰へ」→敬語の「　　　　」確認。

○　**尊敬語**＝　**主体**（～　　・　　）へ

○　**謙譲語**＝　**客体**（～　　・　　）へ

○　**丁寧語**→敬語の「　　　　」確認。

地の文＝「　　　　」へ
会話文＝「　　　　」へ

★敬語の重なる順番＝

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

〔例題二〕 次の傍線部は誰から誰への敬意か答えよ。

帥殿（そちどの）は、常に入道殿に負け①奉らせ給ひてぞ、まかでさせ②給ひける。

①　　　から　　　へ

②　　　から　　　へ

問十一 「ありのままに奏聞す。」の傍線部について、この言葉は誰に対する敬意を表しているのか。次の選択肢の中から選べ。

1　殿守のとものみやつこ　　2　奉行の蔵人　　3　主上　　4　聞き手　　5　語り手

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第十二講　敬語

① 次の「たまふ」に関する説明文の空欄［A］〜［F］に入る最も適当なものを、それぞれ後のア〜カの中から選びなさい（同じ記号を何度使ってもかまいません）。

「たまふ」は、四段活用の場合は［A］の意味で、下二段活用の場合は［B］の意味となる。四段活用の場合は動詞としても［C］としても自由に用い、地の文、［D］ともに無関係に用いる。下二段活用の場合は多くは「思ふ」「見る」「聞く」に続く［E］としての用法にほぼ限られ、［F］に集中して用いられる。

ア　謙譲　イ　尊敬　ウ　補助動詞　エ　会話文　オ　地の文　カ　助動詞

A＝　B＝　C＝　D＝　E＝　F＝

② 「とどめ奉り（ア）」「思し（イ）」は、それぞれどの種類の敬語か。最も適当と思われるものを、それぞれ次の中から選べ。

1　尊敬語　2　謙譲語　3　丁寧語

ア＝　イ＝

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

③「仕うまつり」という言葉の機能について、次のア〜オのうちから最適なものを一つ選べ。

ア　尊敬　　イ　謙譲　　ウ　丁寧　　エ　婉曲　　オ　使役

④次の波線部（ア）〜（ウ）の敬語の種類は、後のＡ〜Ｃのいずれか、記号で答えよ。

「堀川に（ア）おはしますが、明日、陸奥へ御下り（イ）候ふが、…」

「必ず御迎ひを（ウ）参らせ候ふべし。」

Ａ　尊敬語　　Ｂ　謙譲語　　Ｃ　丁寧語

（ア）＝　　（イ）＝　　（ウ）＝

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十二講　模範解答

〔例題一〕 ①　差し上げる　②　（お）～申し上げる　③　お飲みになり（召しあがり）

〔例題二〕 ①　作者（から）入道殿（へ）　②　作者（から）帥殿（へ）

問一　①　c　②　b　③　a

問二　①

問三　3

問四　おぼ

問五　ア　謙譲語　イ　尊敬語

問六　イ

問七　エ

問八　a　2　b　3　c　2

問九　（ア）3　（イ）2

問十　エ

問十一　3

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題解答　第十二講　敬語

〔解説〕

① **四段**活用の「たまふ」は**尊敬**。四段の「たまふ」は本動詞と補助動詞がある。**下二段**活用の「たまふ」は**謙譲**。こちらはほとんどが**補助動詞**で、**会話文中**や**手紙文中**のみで使用される。

② アは動詞に付いているので補助動詞。「**奉る**」は**謙譲の補助動詞**。よって、正解は2。イは本動詞で「おぼし」と読んで尊敬語。よって、正解は1。

③ 「仕うまつる」は謙譲語。よって、正解はイ。

④ （ア）「おはします」は尊敬語。（イ）「候ふ」は丁寧の補助動詞。（ウ）の本動詞「参る」は**尊敬**と**謙譲**の二種類あるが、**衣食乗関係**ではないので、この場合は**謙譲語**。

〔解答〕

① A イ　B ア　C ウ　D エ　E ウ　F エ

② ア 2　イ 1

③ イ

④ （ア） A　（イ） C　（ウ） B

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。